



ニュースレター

2023年2月2日配信

緑豊かで非常に潤ったエズレル渓谷を見下ろすイスラエルの我が家からのシャローム！来週の天気予報を見ながら、オフィスには車で行くべきか、カヤックで行くべきかを考えています。しかし、家にいるのはとても良いものです。ずっと会いたかった家族の顔が見られることほど嬉しいことはありません。

約1か月にわたる講演ツアーは先週末、盛況のうちに終了しました。土曜日、マイク・ゴーレイ牧師と私は、カルバリー・チャペル・イースト・アナハイム (CCEA) で開催されたカンファレンス Proximity: Holding Fast で、バリー・スタグナー牧師とジャン・マーケルさん (オンラインで参加) とチームを組み、聖書の預言を教えた後、討論会と質疑応答セッションを行って、とても有意義な1日となりました。ボブ・コペニー牧師と CCEA のチームのもてなしと奉仕に心から感謝します。

それから日曜日、私は CCEA の2つの朝の礼拝で話をし、カルバリー チャペル タスティンでのバリー スタグナー牧師による夜の預言ディスカッションで一日を締めくくりました。バリー牧師と一緒に教えることはいつでも素晴らしい時間で、このツアーを締めくくるのに最適でした。

30日は、11回のフライト、そして4カ国での13日の講演を経て、ようやくゆっくりと、神がなさったことに本当に感謝することができるようになりました。この1か月間、神がさまざまな形でご自身を明らかにしてくださったことを振り返ると、2つの真実が際立ちます。神はこの世のどこにおいても、世界中に教会を広げておられます。私がシンガポールで飛行機を降りたとき、神の民がそこにいて私を出迎えてくれました。私がベトナムで教えたときは、メシアであるイエスの信者でいっぱいの活気に満ちた会衆でした。フィリピンを旅していると、どの都市でも熱心な神のしもべに出会いました。そして、信じられるなら、南カリフォルニアでも、私たちの救世主を愛する人々がいました！

日常生活を送っていると、私たちとは見た目が大きく異なり、私たちがまったく解読できない言語を話し、習慣や日常生活が私たちのものと大きく異なる家族がいることを忘れがちです。それでも、私たちが彼らと共有する絆があります。それは、私たちが同じ御父を持ち、私たちの霊的な血管には、救い主イエスの血潮が流れているという事実から生まれる愛です。私たちが花婿にお会いし、雲の中で初めて彼らに会うその日とは、どれほど素晴らしく、何と輝かしい日でしょう。イエス様、早く来てください！

黙示録 22:12-13

「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」

【中東】

イスラエルの特殊部隊、ジェニンのテロセルを破壊

イスラエル防衛軍 (IDF) は、ジェニンの難民収容所で差し迫るテロ計画が準備されている情報を捉えて、先週の木曜日の朝[特殊部隊を送り込み](#)、攻撃が始まる前にそれを阻止。しかしその途中で、イスラエル軍部隊は他のテロリストグループのメンバーによる銃撃と爆発的な攻撃を受け、激しい銃撃戦が続いた後、9人のテロリストと民間人が死亡、20人が負傷した。敵の必死の努力にもかかわらず、テロ攻撃を阻止するための急襲は成功。直ちに、世界政府とメディアの常連達は憤慨して、それはイスラエルによる虐殺であり、国連安全保障理事会はその行動を非難すべきだと要求、ガザでは、報復にイスラム主義者がイスラエルに3発のロケット弾を発射し、その結果、イスラエル空軍 (IAF) はハマスの地下ロケット製造サイトとハマスが使用する軍事基地を破壊。そして、昨夜は、ガザからさらにロケット弾が発射されたことを受けて、イスラエル空軍 (IAF) は、戦闘機を送り、化学原燃料とロケット製造のための保管場所および、実際のロケット製造場所を標的にした。

東エルサレムのシナゴークでの虐殺

悲しいことに、パレスチナのテロリストは、ジェニンでの襲撃に対するロケット弾による報復に満足しておらず、次の夜、東エルサレムに住む21歳のアラブ人が車を降り、安息日のために人々が集まっていたシナゴークに向かって歩いていった。[テロリストは拳銃を取り出し、無差別に発砲し始めて](#)、7人の男女が死亡、

少なくとも3人が負傷した。襲撃の後、犯人は車で逃走。しかし、彼の車は止められ、テロ容疑者は銃を抜いて警察に発砲したときに射殺された。国際ホロコースト記念日に起こったこの悲劇をめぐるイスラエルでの喪が始まると、東エルサレム、ヘブロン、ベツレヘムのパレスチナの通り、さらには他のアラブ諸国でさえ、非常に異なる反応が起こった。花火が打ち上げられ、キャンディーが配られ、通りでは歌ったり踊ったりして、この血生臭い虐殺を祝った。この悲劇的な出来事の詳細については、[2023年1月27日ニュース速報（日本語字幕）](#)をご覧ください。

十代のテロリスト、イスラムの理想主義者によって犠牲にされる

シナゴグの虐殺のわずか数時間後、[13歳のパレスチナ人の少年](#)が東エルサレムの通りでユダヤ人の父と息子を待ち伏せし、両方を撃った。負傷した息子は、イスラエル国防軍空挺部隊旅団の非番の将校で、この若い攻撃者に発砲。3人全員が傷の手当てを受けており、父と息子は深刻ではあるが安定した状態にあると報告されている。

イスラエル、イランのミサイル密輸パイプラインを攻撃

日曜日、イラクとシリアの間のアルカイム国境検問所で、警告射撃によって運転手を車から離れさせた後、[IAF ジェット機は25台のトラックの車列を標的にして](#)6台の冷蔵トラックを破壊した。これらのトラックは、イランがミサイルや無人偵察機の輸送に通常使用しているものである。同様に、他の戦闘機は、国境検問所のすぐ北西に位置する都市、アブ・カマルでのイラン司令官の会合を標的にした。これらの男達は、武器輸送を担当していた疑いがある。[オペレーション・ヨクタン](#)を読んだ人なら、アルカイムがカタイブ・サイイド・アル＝シュハダ民兵の指導者が使用したのと同じ国境検問所であり、そしてアブ＝カマルは、KSSがIRGCのコッズ部隊の司令官、エスマイル・カアニと会合したユーフラテス川沿いの町である事をご存知でしょう。

イランの軍事標的に対する大規模なドローン攻撃

土曜日の夜、イラン国境内で大規模なドローン攻撃が発生し、テヘランやイスファハンなど、いくつかの都市が標的にされた。最も大きな打撃を受けたのはイスファハンで、弾薬や武器を生産する防衛工場が、大きな被害を受けたようだ。クワッドコプターが使用され、ターゲットに爆弾を投下されたと目撃者は言う。大半が攻撃の責任をイスラエルに向けているが、他は、米国とイスラエルではない別の国との組み合わせで

あったと主張している。この攻撃の詳細については、今週 2 つ目の [2023 年 1 月 28 日ニュース速報（日本語字幕）](#) をご覧ください。

イランのイスラム政権、抗議行動で優位に立つ

イランのイスラム政権に対する抗議と市民の不安が数か月続いた後、政府と軍の強力な武器がついに勝利を収めたかのように見え、20 人のイラン市民が既に処刑され、さらに 100 人が死刑判決の執行を待っている。抗議運動は可能な限り長く続いた。残念なことに、彼らがイランの急進的な神権政治を打倒するチャンスを得るには、誰かが彼らを支持しなければならない。しかし、西側諸国の政府は、自由を求める大衆に同調する代わりに、アヤトラが新たな核兵器協定に合意するかもしれないという無駄な希望を抱いて、アヤトラに屈服することを選んだ。今では手遅れとなり、さらに多くの人々が命を犠牲にして代償を払うことになる。

テヘランのアゼルバイジャン大使館でテロ攻撃

先週、[銃撃犯](#)がテヘランのアゼルバイジャン大使館に押し入った。中に入ると、彼は 3 人の大使館員を撃ち、1 人が死亡した。イランのエブラヒム・ライシ大統領はすぐにこの行為を非難し、哀悼の意を表したが、アゼルバイジャン政府はライバル国の無罪宣言に満足していない。その代わりに、バクーの政府は、イランが意図的に大使館の警備を怠っていると信じており、その結果、アゼルバイジャンはテヘランから大使館員全員を撤退させている。

パキスタンのペシャワールで、モスクが爆破

水曜日、パキスタンの [ペシャワールのモスクで爆弾が爆発し](#)、101 人が死亡、220 人以上が負傷した。自爆テロ犯は、祈りの最中にモスクの前に移動して、ベストを爆発させ、その爆発の力で、礼拝者たちの頭上に屋根が崩れ落ちた。モスクは厳重な警備区域にあり、警察が使用するために特別に建設されていた。死者のうち 3 人を除く全員が法執行機関のメンバーであった。犯行は、ジャマート・アル・アハラ・テロ組織の責任者であり、パキスタン・タリバンの指導評議会のメンバーであるオマール・ムカラム・クルサニであると声明が出され、加害者はいくつかの検問所を通過してこの地域に入ることができたため、内部からの助けがあったと推測されている。

米軍、ソマリア北部で ISIS の指導者を殺害

[米国アフリカ軍の特殊部隊が](#)、ソマリア北部の ISIS の上級指導者ビラル・アル・スタニを殺害した。ヘリコプターの攻撃で、アル・スタニは 10 人の仲間の過激派と共に彼の製造主に会った。その後、2 日前、米国の無人偵察機から発射されたヘルファイア R9X 「ニンジャ」 ミサイルが、イエメン北東部マリブ州のガソリンスタンドにいた[ハッサン アルカドラミとその仲間 2 人を殺害](#)、アル・カドラミは、アラビア半島で爆発装置の製造を担当していたアルカイダの上級指導者であった。よくやった、アメリカ！

ロシア、ノルドストリームの爆発に米国が関与していると非難

ウラジーミル・プーチンの以前の英国によるノルドストリームのガスパイプラインの爆破への非難からの明らかな変化として、[ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相](#)は今日、米国が破壊工作に直接関与していると述べた。一方、ドイツの捜査官はその可能性を排除しておらず、西側諸国がロシアを非難するために水中爆発に責任があるという「可能性にまだ開いている」と述べている。

ウクライナが攻撃の可能性に備える中、ロシアは前進を続ける

ウラジーミル・プーチンの軍隊は、特にロシア軍がドンバス市を包囲していると主張するバフムット地域で、徐々に前進を続けている。死傷者数は高く、数万人に達すると推定されている。一方、ウクライナはロシアの侵攻に対する反撃の準備をしているようで、まだ約束されていないにもかかわらず、F16 などの西側の戦闘機に対応するために[軍用飛行場をアップグレード](#)している。[バイデン政権は](#)、2014 年にロシアが併合したこの地域への進出に対するゴーサインをまだ差し控えているが、米国はクリミアを標的とするためにウクライナにミサイルを送る準備ができているように見える。ハンガリーのヴィクトル・オルバン大統領は、ウクライナが何をしようとも、モスクワの勝利は保証されていると感じている。なぜなら、来年はロシアの選挙があるため、プーチンが勝利しなければならず、そのため、彼は衝撃と畏怖の念を起こさせる戦術を使って、ウクライナを「コントロール不可能な廃墟」に変えようとしている、と彼は言う。

2023 年に核兵器が使用される可能性がある 3 つの理由

世界は、この 60 年間で最も核戦争に近づいており、私は、2023 年に核兵器が使用される可能性がある状況が 3 つあると考えています。

1. もし米国がクリミアへの侵略にゴーサインを出し、ウクライナを完全武装させるなら、それによりプーチンは核ミサイルを配備する可能性がある。

2. イランが保有していると国際原子力機関 (IAEA) の長官が断言する濃縮ウランを、もしイランが核爆弾の製造に使用すれば、テヘラン政権または彼らの代理テロリスト民兵が、何らかの核兵器として使用する可能性が見える。
3. 朝鮮半島では緊張が高まり続けており、現在、韓国は独自の核計画の開始について話し合っている。仮に彼らがそうすることに決めた場合、それによって追い詰められた金正恩が自身の核兵器を使用する可能性がある。

【ミニストリー】

センセーショナル主義、憶測、聖書の理解の欠如 - これらは来るべき大患難をめぐる混乱を助長する要因です。パンデミックと社会の激動のこの時代に、私たちは、トラブル=大患難ではなく、患難=大患難ではないことを忘れてはなりません。太平洋時間の今週金曜日午後 12 時に公開予定の私のメッセージ、[「大患難は始まったのか？」 \(日本語字幕\)](#) の中で、神の御怒りの 7 年間で聖書の確固たる土台の上に置き、聖書を使用して大患難が始まったとき私たちはここにいない事を教会に保証します。

カナダ在住の皆さんに、とても特別なニュースがあります。ビホールド・イスラエルは、11 月 3 日から 11 日にかけて、初のカナダ在住者対象のイスラエルツアーを行います。人生を変える経験になるでしょう！詳細または登録については、[Behold Israel の Web サイトをご覧ください。](#)

[Bible Prophecy: The Essentials](#) バリー・スタグナー牧師と私とで書いた本がビホールド・イスラエルのショップで入手可能になりました！聖書の預言に関するすべての質問に対する優れたリソースを探している方にピッタリの一冊です。その中には、イスラエル、教会、終末に対する神のご計画に関して、すべての重要なトピックが含まれています。今すぐご注文ください。

過去 1 か月間、このツアーの間の皆様のお祈りに感謝します。皆様にとっても祝福されました。私の体が弱っていたときには聖霊の力によって活力が与えられ、主が私に与えられたミニストリーの機会を果たすために必要なものが与えられるのを何度も感じました。ビホールド・イスラエルのチームと私自身を代表して、皆様に感謝を申し上げます。We love you!

主の来臨を待ち望む。



ビホールド・イスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/@BeholdIsraelJapanese>

日本語の聖書箇所は特記がされていない限り新改訳 2017 より引用しています。

聖書 新改訳 2017©2017 新日本聖書刊行会

メッセージの無断転載を固く禁じます。

Copyright © ビホールド・イスラエル All Rights Reserved.